

第28回市民ふれあいトークー地域力を活かすまちづくりー

日時 平成23年4月22日 18:30~20:00

場所 玉島西公民館

要約版

《市長》

皆様こんばんは。多くの皆さんご参加を賜りまして、誠にありがとうございます。この市民ふれあいトークは、各中学校区の公民館に参りまして、地域の皆さんと意見交換をさせていただいたり、その前段階として、今の倉敷市の状況や、市のトピックスなどご報告させていただきながら、皆さんとの意見交換をと思っております。最初に私のほうから15分ほど、今の倉敷市の市政報告なり、市で取り組みを行っていることにつきまして、ご報告をさせていただきます。まず、東日本での大震災の事が、毎日、テレビなどでも報じられていて、ご覧になられていると思います。玉島の町内会の皆様からも市へたくさん義援金を持って来ていただきまして。実はその義援金につきまして、約1ヶ月ほどの間に、1億3千万円ほどを倉敷市全体で、皆様からご寄付といいますが、寄託をいただきました。そのうち、こちらのほうに避難する方もおられますので、ひとまず1億2千万円を、現地の、被害の非常に大きかった7つの県、青森県、岩手県、宮城県、福島県、茨城県、栃木県と千葉県の方に振り込みをいたしました。これらの県が災害救助法の適用があったということで、亡くなられた方の人数とか、全壊の家の数を計算いたしまして、多いところでは2千万円、福島県や岩手県、宮城県は2千万円とか4千万円ほど、少ないところでは100万、150万、250万とか、そういう形で7つの県の口座へ、倉敷市から直接メッセージを添えて、振り込みをさせていただいております。一部の側では、配付の方も始まっていると伺っておりますので、皆様からいただいた義援金が、少しでもお役に立てばと思っております。また、倉敷市からも、現地へ支援をいたしております。

実は東日本の災害が起こる前に、ニュージーランドのクライストチャーチで地震が起こり、我々の姉妹都市でございます。日本国とニュージーランド国の中で、初めての姉妹都市関係を結んだ都市同士ということで、ニュージーランドの地震が2月22日に市議会が開催されているその日に起こりました。市の消防士を1名、玉島の署からも1名行っております。玉島の消防、倉敷と、事務職1名計3名を、初めてでありましたが、直接ニュージーランドのクライストチャーチのに派遣いたしました。22日に地震が起こりまして、翌々日に現地のほうに派遣し、倉敷市の青とオレンジ色の服で現地で活動を始めましたら、背中に倉敷ファイヤーと書いてあります消防局の服が。現地、クライストチャーチの市民の皆さんは、倉敷市が姉妹都市だということをほとんどの皆さんがご存知でいらっしまして、倉敷の服を着て日本人が活動を始めたということで、わざわざ三日後位で『北半球から南半球にすぐ来てくれたということで、通る人ごとに立ち止まりサンキューだったり、日本語でありがとうございますと言ってくださいます。約1週間ほど活動して帰ってまいりました。我々が、クライストチャーチの方に職員を派遣し、その後日本の大震災が起こりま

した。実は後日談がありまして、先日ニュージーランドの大使が、わざわざ倉敷までお礼を言いに来てくださいます、クライスチャーチの時にすぐに駆けつけていただいて、ありがとうございます、という事があったのですが、それと同時に今回ニュージーランドから東日本に何十名か、自分の国が被災されておりますけれど、派遣をすぐにして下さいました。大使が言われるには、ニュージーランドから国外に救援隊を派遣したのは初めてなのです。なぜ派遣しようと思ったかという、倉敷市から、いの一に駆け付けてくれて、自分の国も被災しているけれど、日本の方にも恩返しをせんといかんということで初めて出しましたと言われており、そういう面で、東日本の役に立ったり、世界の中でのつながりというのが非常にあるんだなと思っておりました。

東日本の災害が3月11日に起こり、倉敷市から翌12日の朝八時半に、消防局から、消防車、救急車を含めまして7台と消防職員が22名現地へすぐ出発いたしました。出発した時は、まだどこへ行くか決まっていなかったのですが、とにかく東へ向かってみんな走っていきましようということで行きました。それと同時に水道が断水になりましたので、水道局の給水車を一台一緒につけて、車と職員ですけれど、3名がまず一緒に行きました。

消防は、塩釜市と多賀城市につきまして、泊まる場所は、もちろんないので、陸上競技場のグラウンドにテントを張りまして、1週間、皆で頑張っておりました。水道局は、仙台市に行き、仙台市の水道局の2階の会議室に、それぞれ寝袋で、作業したのですが、うちの職員さんたちが申ししておりましたのが、水道局のタンク車が仙台の小学校のグラウンドについたら何百メートルも皆さん列をなして待っていらっしやっただと。ポリ袋を持たれて水道の給水を待っていらっしやっただのですが、車が来ましたら皆さん拍手で迎えてくださったということでありました。消防局も一生懸命やっておったのですが、車体に倉敷市と書いてあります。現地で赤い車に倉敷市と書いてあったら、その車に現地の皆さんが手を合わせてありがとうございますというふうに、助かるということで感謝の気持ちを言ってくれたり、市役所に電話とかメールが来て、わざわざ遠いところから来てくださって本当にうれしいと言って下さったり、我々も励みになりまして、一生懸命支援活動しております。最初は、どこに支援をするのかということ、県と県で話し合いをして、どこの県はどこに行くとどこの市町村はどこの市だけを集中的にやろうという話に、交通整理をしようということになっていたのですが、なかなかそうはなりません、やっぱり現地も混乱しております。こちらからコンタクトを取ったり、向こうのほうから連絡が来たらそこへとにかく行くようにしており、岩手県の大槌町、ここも大きな被害を受けましたが、岩手県の大船渡市、そして岩手県の陸前高田市、そして宮城県の気仙沼市、同じく石巻市、そして多賀城市、塩釜市、仙台市、松島町、福島県の中核市の仲間、郡山市といわき市というのがあります、こちら皆さん原発の関係で非常に困っていて、直接、市のほうから、物が入らないので何とかしてもらえないか、と電話が掛かってきました。皆さんからいただいている支援物資を環境リサイクル局の車に積み、現地へ何回か行って

おります。3つの県に10の市と3つの町に対し、ここ1ヶ月ほどで、延べ120人の市の職員がまいりまして、交代もしているんですけど支援をしております。ガレキの撤去であるとか、下水道の壊れているのを直したり、いろいろなことをやっております。まだまだ復旧が進まないわけですけども、こちらのほうからできる支援をやっていきたいと思っております。また、こちらは遠いということで、来られている方は少ないのですけれど、来られている方への支援をしたり、まだ原発がどうなるか分かりませんので、福島県の方は非常に心配されております。(そういう方に)少しでも来よう、とっていただけるような市の支援策などを前以上に考えているところであり、まだまだ長い支援になると思っておりますけれど、とにかく日本を挙げて頑張っていかなければいけないと思っております

昨日か一昨日、市の第3回目の支援対策会議をやりまして、今の支援のお話と、現地の支援ももちろん大事でございますが、私と市議会では、この倉敷市で災害が起こった時の考えについて、より心配になり、もう一度見直しをしないといけないということで、一昨日の会議の中でも、普通でしたら国とか県の防災計画がある程度決まっからうちへ市としてどうやってくださいとか言うてくるのですけれど、地震も非常に全国的に大きくなってきていますので、いつか災害が起こったら困りますので、国県から言ったらなくても、見直せる分について、こっちからやっといこうと、防災会議で見直しを始めているところでございます。

特に、こちらの玉島地区、水島の沿岸部分、児島の地区については平成16年の台風災害の時に本当に大きな被害があり、この玉島の勇崎の地区では西山さんが、お亡くなりになったということもあり、お近くの方もいらっしゃるのではないかと思います。そういうことを無駄にしないように防災計画を立てていかなければならないです。

いろいろやってきているんですけども、防災のことに力を入れていかなければいけないと思っております。

この地図をなんとなく見たことがあるという方は、手を上げていただけますでしょうか？ありがとうございます。各御家庭に、広報紙などに挟みまして配らせていただいております。津波のハザードマップでございます。この地図は東南海、南海地震の津波の想定して、このあたりの地区、青のところは津波が2メートルから3メートルぐらい来るという前提で作っております。この想定は、東南海、南海地震が一緒に起こった場合で、今回の東日本の方ではマグニチュード9.0でございましたが、この地図で、こちらと一緒に起こったときに8.5というのが起こったときに我々の倉敷市に津波がどういう風に来るのかということで計算をしていただいたのがこれです。余震は、震度4とか5とか、大きくても6とかです。8.5とかは、かなり大きな地震を想定しての計算をしたものですが、もちろんそれがすぐ来るということではないのですが。その時の避難場所が玉島南小学校だったり、柏島の幼稚園だったり、良寛壮だったりということで書いてあります。それをお配りしている訳です。このハザードマップ自体について、今回(の災害)は想定外と言われてはいますが、この津波がもっと高くなった場合に、どれくらいなら大丈夫かと

いうことも含めて見直しをしたいと思っております。この想定で津波が起こったときに2メートル、3メートルの津波が来るのは時間としては、だいたい2時間半くらいかかると言われています。地震が起こったらすぐに、かといって2時間半もかかって逃げるよりもっと早くに逃げていただかなければいけない訳ですけど。すぐに10分で来るような地震は、遠くで起こりますので、この東南海、南海ではないわけですけど、安心して、落ち着いて逃げていただくと、大体間に合うのではないかと思っております。ただ、日ごろからの訓練が必要であることは間違いないわけですけど、そういうような津波ハザードマップを皆さんにお配りして、意識を高めていただくことが必要であると思っております。

それからこちらの地域の宝亀を中心とする土手を初めとする押山、羽口、勇崎のポンプの更新でありますとか、市の持っておりますもの、宝亀の土手の整備、国と県と市とでそれぞれ分担があるわけですけど、沿岸部の先のほうに堤防が見えると思いますけれど、津波がそのまま来ないように沖の方に行くつかの離岸堤と言いますけれども、それを市と県で造りまして、少しでも津波が来たときに、災害がないようにということで策定をして進めているところでございます。

それから今、倉敷市で整備をしております、最初に黒崎新町公園のところにスピーカーを付けて、台風などの時にスピーカーに注意してくださいということを流したりしているのですが、それを聴かれたことがある方、ちなみに手を上げていただけるとありがたいのですけれど。ありがとうございます。まだまだ少ないですね。

《参加者 A》

黒崎に？

《市長》

はい。今はもっとたくさんあります。今、沿岸部の声が聞こえる範囲ごとぐらいに市の公共施設、小学校とか幼稚園とかの上にスピーカーをつけ、そこから沿岸部だけ台風の高潮に注意してくださいとか、弾道ミサイルが飛んでくる可能性だってあります。その時には、倉敷市全部にいつせいに知らせるということを使えるような仕組みを緊急無線システムというのを作りまして各地区の側でやっております。この前も夕方地震が起きたときに、夕方4時から7時くらいの間何回か、特に沿岸部の側にさせていただきました。倉敷市の側には10センチほどしか来なかった訳ですけど、そういうものを使い注意を呼びかけたりしているところです。この事についても、再度チェックをしないといけませんが、もう一つは、地域のコミュニティ、町内会における防災組織の皆さんの活動、地域での逃げるための訓練でありますとか、意識を高めていただく事が、非常に大切です。皆さんが逃げていただかない事には、呼びかけるだけではどうしようもないので、非常に大切と思っております。

玉島ハーバーアイランドの事を言いたいのですが、この3月1日に、航空機産業が玉島

ハーバーアイランドに来てくれることが決まりました。市と岡山県とで、玉島ハーバーアイランドにはまだまだ土地があり誘致をしているわけですが、玉島ハーバーアイランドに航空機産業の飛行機のエンジンの車体の部分を作る、最先端の工場が来る事になりました。その工場と同じモノが作れるのは全世界でもフランスとロシアだけであるということを知り、それらもう古い形式になっていますので、ここのものは世界で最先端だと聞いております。愛知県は飛行機、航空機の日本の最有力の場所ですが、愛知県と玉島と2つ残りました競争をした訳です。我々の側から一生懸命言いましたのは、倉敷市は、東南海・南海地震の直接的な被害の場所から遠いということですを言いました。

いろいろ水深の事も調べて、名古屋あたりの水深は、もしも地震が起こった場合、瀬戸内海の水深と名古屋のあたりの水深とでは瀬戸内海の方が浅い訳です。もし地震が起こっても今回の東日本のようにものすごい津波が来る心配は地形的に非常に低くなる訳です。向こうと比べてもこちらのほうがより安全ですということを一生涯懸命言っておりますと、こちらに来ましよう決まりました。今後、まずその工場ができて改修するのですが、私たちが考えているのは、やはり最先端ですので、なかなか一般の工場では作れないことも多いと思います。水島コンビナートも含め、倉敷市内の非常に技術のある会社、工場はたくさんあるわけですから、そういった工場に少しずつでも会社の側が慣れていって、倉敷市にも、もともと航空機関係の産業が立地していますので、そういった会社で作れる部分に関しては市内の会社に仕事を出してもらえるように、こちらで人を雇っていただきたいということをお願いしているところです。この玉島ハーバーアイランドは非常に大切な場所であり、他の全国の工場の立地の場所に比べても優位性を持っているという事が、そのような最先端企業が選んでくれたということからも、倉敷市は他のところよりも安全だということの裏づけということも変ですけど、そういう風になっております。防災につきましては、またおりにふれましてうちの防災対策室の側からも、ご説明をしていきたいと思っております。

そして、この玉島地区のことにつきまして、2点ほどご説明させていただきます。

玉島大橋の海岸のところを走りまして土地ばかりの所になっており、玉島港公園として整備をしている所です。この地は災害の時に災害の瓦礫やゴミを集積した場所です。その場所を公園として新しく生まれ変わるようにしようということで地域の皆さんとお話しているところです。今急ピッチで工事をしております。グラウンドのところと芝生のところとで活動していただけるということで、今年度内にできるようにという思いで工事をしているところでございます。

もう1つ玉島の地域全体としての大きな話題といたしまして、玉島支所の文化センターのところにあります公民館を始めとした一帯を整備しなおすということで玉島市民交流センターを現在整備しております。こちら今年度内に整備ができるようにというつもりで整備しております。阿賀崎公園があるところが以前と変わっているとは思いますが、太陽光発電の整備をしたり、こちらのホールもガラス張りの明るいものにして、ホール

の席数も360席ぐらいあるように配備しています。こちらの武道館も建て替えをしまして、使っていただけるようにと思っております。これまでの施設よりもいろんな施設を合わせて合築することにより、施設としての管理と今後にかかる費用を抑えていきたいと考え、1つずつ造っていますと非常にお金がかかってしまいますので、そこら辺に注意をしてやっております。この玉島の市民交流センターで地域の皆さんのお話を聞いて我々が特色として力を入れていますのが、お茶室を使っていただけるようにと考えています。玉島はお茶のまちということで、ここから見えないんですけど、南の方から見えます和室に大きなお茶会ができるような、お茶専用ではないのですが、区切って使っていただける和室を造りまして、名前を公募いたしましたら、良寛の間が良いということになり、この中に茶室を造ったり、玉島ゆかりの偉人の方、池田遙邨さん、坂田一男さんの顕彰の部屋もこちらに入れている状態であります。最初この建物は四角い普通の建物だったのですが、工夫をしまして、玉島は高瀬舟の北前舟の町ということで、港の町ということで、波を少しイメージできるような、普通の屋根でなく玉島は桃の町でございますので、桃のカーブを使ったようにして、桃の町と視察に来てくれた方には言えるようにしています。

ちなみに今、施設を造っている中で、児島ではこちらでやっている事と同じように、ジーンズホールという名前にしまして、日本で初めてなのですが、緞帳をジーンズの布で作りましてジーンズホールとして特色を持たせるように設計し、作っている状態です。あと一年ほどでできます。玉島のホールは、今までよりも一箇所出入口を増やしていますので、これまでよりも使っていただきやすくなるようにと思っております。

もう一つ、倉敷市内の全体に関しまして、皆さんもご関心があると思しますので、倉敷駅の前の状況について少しお話をさせていただきたく思います。

ここが倉敷駅前ですが、平成20年の末にチボリ公園が閉園をいたしまして、景気が悪いので、クラブウさんに対して次の施設についてどうなるのかということ、非常に心配をして、お願いをしていたのですが、発祥の地ということで一生懸命企業を誘致をしてくださしまして、イトーヨーカドーさんと三井不動産のアウトレットモールが来ることになっております。市としては、ショッピングの商業施設もありがたいわけですが、駅の周りということで、普通の建物ばかりではなく、緑の部分、特に倉敷市の中心部には大きな広場がなく、防災の時に危ないということがありましたので、広場もかねた大きな公園を造りたいということでクラブウさんと交渉いたしましたので、できればもう少し広く売っていただきたかったのですが、そういうわけにもいかなかったのですが。この公園の部分、行かれた方はわかるかもしれませんが、チボリ公園の中の川みたいなのが流れておりまして、これは用水なのですが、倉敷用水の川のところを緑道公園として整備をしております、市が買いましたところをあわせて、約2ヘクタールくらいの緑道緑地公園になっております。先ほど話しました玉島南公園の広さと同じくらいの広さになるのではと思っております。こちらの方は片道300m往復600mになりまして、この周りがこれまでは直接道路になっているところと歩道になっている部分があり、行かれた方はわかるかもしれませんが、

歩くのに非常に危なかった部分もありましたので、この 600m とあわせて、周りが 1.4 Km で、ぐるっと回っていただいたら大体 2 Km でこの地域の皆さんの散歩コースもかねて整備をしていく予定になっています。ちなみにこの公園と緑道の整備費用でございますけれども、クラボウさんから土地を売っていただくものも含めまして、大体全体で 16 億円弱の金額にはなりました。16 億円そのものだと高いしお金もかかると思いましたので、国からいろいろな交付金や補助金を取ってまいりまして倉敷市の実際の自腹の事情が約 2 億円ですむように整備をいたしております。

こちらでも今年の年末の 11 月、12 月にできる予定になっておりますので、行かれる皆さんにつきましてはこういうところが大体 300m くらいなんだなと思いつつ、歩いていただければと思っております。

寿町の踏切が非常に混むのを皆さんご存知だと思います。拡幅工事だとか国道 429 を広げる工事をしたり、絶対混まないということはないのですが、混まないように今がんばっておりますのでよろしく願いいたします。私ばかり話して申し訳ありませんでしたが、市内の状況に関してご説明をさせていただきました。それでは大体八時前ぐらいまでの間にぜひ皆さんの方から、私も 1 つ皆さんにぜひ伺いたいなと思っていた事がありまして、今回の東日本の津波でも、昔からの歴史で大津波が百年に一回とかにきて、昔からのここより下に家を造るなというところから上は助かったというようなことがありまして、私も職員さんに言いつつ、各沿岸部の昔からの津波などの歴史を調べてもらうようにと言っているのですが、そう言うことなど、知っていられれば教えていただければと思っております。意見でも感想でも何でも結構ですので、お話をさせていただける方がいらっしゃいましたら、手を上げていただけたらありがたいと思います。

《参加者 B さん》

一福小学校に、50 年ほど前に今から言うと 100 年ほど前に起きた大津波のことを書いた本を小学校が発行しています。図書館などにもなかったのをパソコンで打っていくらかの図書館へは寄贈しといたのですけれど、調べていただけたらと思います。

《市長》

どこの図書館でしょうか？

《参加者 B さん》

玉島にも寄贈しています。

《市長》

それはもしかして、千人塚のことでしょうか。

《参加者 B さん》

その関係です。当時の皆さんがそれぞれ文章を書いておられるから、それを読むとある程度はお解かりになると思います。

《市長》

ありがとうございます。

福田の地区、広江も含めて洪水が起こって亡くなったという話を伺っております。今回歴史が百年とか何百年に1回は繰り返すことがあると思いますので、皆さんにそういうことを教えてもらいながら、防災対策の見直しもしないといけないと思います。

《参加者 C さん》

明治17年にこの玉島地区では宝亀の堤防が決壊しまして、唐船まで被害を及ぼしたと聞いております。

《市長》

わかりました。明治17年ですね。今から百何十年前ですね。

《参加者 C さん》

そのときにこの勇崎は塩田ですから塩田が壊滅状態になったという記録があるそうです。

《市長》

なるほど、この八幡山があるのですけれど、その時山はどうだったんでしょうかね。山に逃げて助かったということは。

《参加者 C さん》

地震ということではなく風の関係で、台風の関係で福田だったら、南畝の先が切れたということなのです。

《市長》

宝亀の堤防について明治17年の分も倉敷市史の昔の歴史もありますので、その辺りのものも調べさせていただきたいと思っておりますし、16年の時も心配な状況になり、何とか堤防としてはもってくれたんですが。水が上からかぶったら海側は大丈夫でも内側から崩れていくのが一番危険だということで、陸側の面を全部整備をしておいたり、ということで、現在行っていますが、17年の時もどれくらい来たかということも参考にさせていただきたいと思います。ありがとうございます。

《参加者 D さん》

私は玉島乙島の生まれなので、私が記憶している限り、終戦後と思いましたが、坂田新開、堤防が切れまして坂田町が2階まで浸水し、船で行き来したことを覚えています。船に乗って2階から出入りしたのを体験しております。日にちははっきり解りませんが。

《市長》

それは昭和20～。

《参加者 B さん》

それは青函連絡船の洞爺丸が沈んだ台風です。

《参加者 B さん》

それは昭和29年？ちょっと解りません。

《市長》

日本列島の沿岸部をずっと通って、北のほうでは青函連絡船が沈んだときの台風ですね。やっぱり何十年かに1回は大きいのが起こるのですね。

《参加者 E さん》

老人会について聞きたいのです。老人の方は現状では増えているというのですが、老人会そのものの自体は衰退してきております。老人は増えてきているのに老人会は減ってきているという状態なので、倉敷としては老人会の推進委員をどのようにしていくのかを一点聞きたいのと、老人の健康にいい制度、基準検診というものがあるんですが、皆さんそれを利用する人が非常に少ないという現状で、それをもっと皆さんに解るように、あるいは市も進んで何か手を討って皆さんが長生きするように、健康でいれるように手をうってください。

《市長》

最初の老人会のことでございます。先日も老人会の総会があり、クラブ会員は2万2千人位いらっしゃると思いましたが、活動は各々地区でばらばらだと思いますが、老人会の加入の数が最近伸びにくいということの理由が、名前が老人会なのでわしはまだ老人じゃないと思われる方も多いいということを知ったことがあるのですが。名前を変えればいいという問題でもないとは思いますが。それについても私は1つ懸念というか。それと、一般的に私が年配の皆様方に対しまして、市の福祉政策の中で大変大切だと思っておりますのが、すでに入院されたり介護保険の方になられたりしてる方もいらっしゃる訳でございますが、市としてはなるべく皆さんに健康でいていただく事が大事なわけです。そうじゃないと、医療費がたくさんかかり市の財政もピンチになるわけです。それも大きな理由ですが、皆さんになんとか元気で長生きをしていただきたいと思っております。私が福祉局、例えば公民館の生涯学習のライフパークの担当の者と相談をするときに、地元の愛育委員の皆さん達に活動をやってくださるときに、なるべく健康の講座を少しずつ増やしていただいたり、愛育委員さんに地元のウォーキングマップを作っていただいて、少しでも皆さんが地元で歩き回っていただいて、そうすると避難経路の準備にもなるかと思ひまして、そうやって歩いてよく避難経路を知っていただくと、いざという時に逃げていただきやすいということもあり、とにかく健康を主眼に置いたものを市の政策としても取り組みをしていきたい、もしくは予防の面で取り組みをしていきたいと思っております。

検診を受けられる率が少ないということは聞いており、何とかもっと解りやすい広報を

したり、私をもっと外で話をしないといけないと思っているのですが、今回平成 23 年度から予防のための施策で、倉敷市が取り組みを新たにしましたのが、日本人の死亡の大きな理由の 3 つが癌と脳卒中と心筋梗塞、もう 1 つ非常に大きい要因が肺炎で亡くなられるという方が非常に多いということです。この肺炎は肺炎球菌ワクチンで予防ができますので、全額無料は難しかったのですが、大体病院に行きますと 8,000 円くらいかかるのですが、市では 3,000 円補助を出しまして 5,000 円で肺炎球菌ワクチンを射っていただける制度を今年からはじめました。お医者さん方と相談をいたしましたら、70 歳の時に射つと、一番効果があると、一番理想は 5 年ごとに射つのがいいのですが、1 回射っていただければ射たないのと比べて、80 歳くらいになっても効き目があるということです。何とか 70 歳のときに射っていただきたいということで、今年から始めたのですが、初年度は 70 歳以上の皆さんが全員対象といたしまして、75 歳でも 80 歳でも皆さん対象で射っていただけることにいたしております。来年からは、70 歳の時に医療効果があるので、来年からは 70 歳の時になっていますので、できれば皆さんの側からもこの事を広めていただいて、ぜひとも今年のうちを受けていただければとありがたいなと思っています。直接の回答になったかは解りませんが、老人会、健康の事についてはそのような考えを持っております。

《参加者 F さん》

私たち内山地区は平成 16 年に大きな被害をこうむりました。今回の大震災を見まして正直に言って倉敷の取り組みが我々には理解できないですね。まず新聞を見ても倉敷の名前が出てこない。出てくるのは総社、六万人の市庁かもしれませんが、アムダとやったとか、何をしたとか出ている、それから新見、大学と一緒にやっていて。ところが市長の話の聞けば確かに消防自動車が出たとかクライストチャーチの問題については確かに大使が来たとか、そういう話は出てくるのですが、東日本の震災について出てこない。何で出てこないのかと私は非常に疑問に思いました。これだけの災害が起きたときには、我々平成 16 年の時に、ボランティアからずいぶん援助が来た。今度だって倉敷市に広報車があるのなら広報車で回って、我々はこういうことをしてもらったんだと、だから今度はお返しするんだと、そのためにはこういうところに寄付金を設けているから、そこへ寄付してくれというような広報車がなぜ出ないんだと。私たちはいち早く会長が集めて、幹部で見舞金を出そうと、この日曜日が総会なんです、その前にとにかくやろうとやってやった。どこに持っていくか、たまたま会長が知っていたので、市役所の 2 階にもあるよと。そこに行けば証明書もくれるよと。確定申告申請をしている人にもそれが減額されるよと、そう言うことで私も個人的に持っていった。ところがどこに看板があるのか、支所なんて何にもない。義援金持ってきたんだけどどこに持って行ったらいいんだといたら 2 階のここへ行ってくださいで終わりだ。これだけの被害を被ったところで、そういう状況で、市長が言ってることと、私が感じてるところとでは全然関係が違うんだよね。その辺はどう

感じているのか、本当にわからない、これが一点。

もう一点はこの倉敷の広報(紙)、いったいどういう年齢層を中心にして書かれているのか私には解らない。この12ページを見てごらんください。「デザイナーズインキュベーションの利用者募集」何ですか、この意味は。誰を対象に書いてるんですか。例えば30代の男女だとか、約50代とか、その辺を中心に書いていますよだとか、高校卒業の人を中心に書いてるよだとか、いうのがまったく読めない。この予算をみて、ほんとにわかる人がおりますか。特にこの中で一番心配しているのがこの市債ですよ。市債は年々減ってきてはいますが、非常に大きな借金をしてるわけです。今市長が言ったことは公園を造るだとか、やれ玉島の何かを造るだとか、将来メンテナンスがかかるものばかりを造ってて市債はわずかに減ってはいるけれど、本当に大きな市債を背負っているわけです。いったいこれをどうやって減らそうかという市の姿勢が見えない。何にも書いていない、人件費の問題だってそうでしょ。これを見たら増えているのか減っているのかさっぱり解らない。これで広報となるのか、ならないのか。私は昔組合の活動もしてましたけれど、そのときにどうやったら皆にわかるようにPRできるかと言ったらスーパーの宣伝用のビラなんだよね。あれは主婦に対して何が一番安いか、これ買ってと目玉にしているのと同じで、この市の広報もそういうことを考えたらどうかなと思うんですよね。その2点を聞きたいのですが。

《市長》

ありがとうございました。まず今回の災害に対し、なぜ倉敷市の名前が出てくるのが少ないかと申しますと、PRがまだまだ足りないのかもしれないかもしれません。もちろん我々の市は人口も多いですし、それなりの仕事をやっている訳であり、総社や新見と比較にならないだけの人数を出してる訳です。これは私をもっと改良しなければと思っている事なのですが、倉敷市は以前から自分がやりましたということをあまりPRしないというか、しないのがいいとも限らないのですが、やった、やったみたいなの、そのところではなく、実際に一生懸命に支援をするというところに重きをおいて、着眼をしても最初にPRしてそこから出発するというより、もう先に行って支援をしたほうが良いという考えの職員さんが非常に多いところがあると思います。アムダや総社や新見と比べて、我々の支援が少ない訳ではない。ですがPRがまだまだ足りないかなとは思っています。

それから広報紙のことについて、よく指摘をされるんですが、以前よりも改良をしているつもりなんですが見にくい、見えにくい、読みにくいところはあると思います。多くの情報を入れたいということがあり各課からどんどん出てくるので、紙面の数も限られていますので、数が多くなって小さくなっているというのもあるのです。

さっき言っていたいただいた予算、費用のことについて、先ほどの話の建物をつくったからこれまで以上に費用がかかって、将来に対する負担が今まで以上に増えているということがないようにと思いつくっています。以前は倉敷市もたくさん税金があつて各地区でた

くさん作れたのですが、年数もたち建て替えの時期となっていて、その時に二つのものを一つにしまして、地域にとってなくていいというものであればいいのですが、なかなかそういうことにもならないということで、一緒にあわせて将来への経費が少しでも下げたりという工夫をしながらやっておりますが、確かに予算の分とか解りにくい部分もありますので、ご指摘いただいたとおり改良していければという思いは持っております。ありがとうございます。

《参加者Gさん》

避難場所についてですが、この避難場所の洗い直しを防災計画見直しの中に入れていただきたい。9箇所くらい避難場所を指定したのがありますね。あれで逃げる場所が決まっていればいいのですが、玉島地区は非常に低いところに学校などがあるわけです。この避難場所を見たときに2～3mの津波が来たときに、私が地図を上から見るに、乙島小学校は山の上にありますよね。南小学校も山の上にあります。東中学校もちょっと危ない。良寛荘とかけっこう高いところにあるのですが、あとはこの前の16年の台風のときでも、結構ある小学校、中学校が、水泳大会ができるくらい水が溜まったということがあります。そういう面では、たぶんこの市の届くところを指定してあるのではと思うのですが、やはり非常事態の時にはこの辺は役に立つことがある訳ですから、その辺をもう少し見直しをしていただけたらいいなと思います。市の関係のところだけさきとすぐに作られたように思えるんです。本当に実効性のある逃げ場所をもう一回洗いなおしていただければと思います。それから、自主防災会を一生懸命作って地域のことは地域で助け合おうということが狙いで作っているわけですから、資料を見ると全国平均が、分母がよくわからないのでなんともいえないのですが、全国で74.4%ができていますよね。ちなみに岡山県が50.8%ですね、倉敷市は36.1%ですね。これは非常に少ないですよ。やはり地域のことは地域で協力し合って災害の被害を少しでも少なくしようという本来の狙いからすれば非常に寂しいと思います。岡山県の中でも尻から二番目というふうに聞いているのですが、尻から2番目というのはいかにも寂しいものです。岡山県は災害なり被害が少ないところだと、倉敷市もありがたいことにはないんです。そういうことで防災ということについて感心が薄いのではないかと。色々市役所では努力をいただいているようですが、なかなか市民が踊らないということは防災意識がピンという感じには身についていないのではないかと思います。これをどうやったら少しでも大きいプランとか会とか。助け合いの組織が増えてくるようにしたらいいんじゃないかと。私は一昨年、市の提案事業で採用していただき、災害に強い自立した市民づくりということでやらせていただいたのですが、その時にも熱心に参加してくださる方もおられるので関心はあるんだなと思いました。7回くらいやらしていただいたんですけども、この西公民館でも50人位。30人位集まればと思ってましたが、関心高いと思いました。それでいて組織ができないというのが問題です。方法はいろいろあると思うのですが。これは民間でやらなけ

ればいけないことですから1つよろしく願いいたします。

ついでですが、私どもも老人会を作り仲間入りさせていただけることになりましたのでよろしく願いいたします。

《参加者Hさん》

避難地域に指定されている玉島南小学校の現状を市長さん一回見てください。昼でさえ利用出来ないような道路しかないのは玉島南小学校だけだと思います。まして夜はほとんど利用できないようなところに避難地があり、両方崖みたいになって、上から降りてくる人がいたら全然上に上がれない状態なので、明るいときに一度見ていただいて対策を早いうちにとらないと使いものにならないようなところを避難地にしても困りますし、道を広げるしかないですが、いい方法を考えていただけるようお願いいたします。

《市長》

1つは車で逃げるといことはあるのですが、今の南小学校を指定している場合に車で皆さんが逃げると動かなくなつて歩いていかれる方が逃げられなくなることがあると思います。回りが民地ですので急に道が広がることは無いと思います。努力はしたいのですが、現実問題としてはすぐに道が広がることは難しいと思います。もちろん南小学校のこと自体はもう一回チェックをしようと思いますが、時間は先ほど申しましたとおり2時間半位あります。瀬戸内海で起きても、水深が他の地域よりも浅いので、ものすごいことにはならないので、歩いて避難していただきたい。もちろん体の不自由な方もいらっしゃいますので、車のことも大事なことだと思っております。それと、場所が違うんですが、これまでは指定避難場所です。クラレさんのところに勝手に我々が避難してくださいというわけにはいかないで、公共の場所ということで今まで作っておりました。第一歩に、くらしき作陽大学さんをお願いいたしまして、作陽大学だけでなく連島では芸科大（倉敷芸術科学大学）をお願いして、倉敷では川大（川崎医療福祉大学）にもお願いしまして、児島にはうちの市立短期大学もありますので、それぞれの大学の敷地を、幸い非常に高い地域にありますので大学の敷地に皆さんが避難してよろしいということで、協定を結ばせていただきました。まだその位からですけど、その見直しをする時にでもあのあたりの公共の施設も使おうと思うのですが、作陽も逃げ場所としてできますよと。この地域においても避難場所の見直しを。南小学校が全く外れるということはないと思うのですが、見直しは必要だとは思っております。ご意見ありがとうございます。自主防災組織少しでも広めていただきたいし、市としても皆さんと協力しがんばっていかないと考えています。

《参加者Iさん》

防災に関して、避難して行方不明者が何名という、数をはっきりしていないと思うんです。町内会、民生委員、愛育委員の方とかが一番困っているのが町内ごとの地図なんです。と

申しますのが、個人情報保護法でいわゆる業者が作成しても、できないような状態になっている。倉敷市はしっかりしていますので町内ごとの地図を把握して作られていると思うのですが、業者さんに高いお金を払って作ってもらおうと、たとえば山田太郎さんが15年前に亡くなっても山田太郎さんのままだと思います。そのようなものを市で作成していただいて、必要最小限というのがどこまでなのか解りませんが、最小限の町村ぐらいのもの作ってもらえないでしょうか。それが提案であり、要望なんですけれども。

《市長》

民生委員さんからも同じようなご意見をいただいております、数年前からできた個人情報保護法の関係でなかなか情報をあちらからこちらへと出すという形ができなくなっているのが、非常に困ると言われております。市のほうで住民台帳があるわけですが、それをそのまま町内に台帳ごと渡すと言う訳にはいかないのですけれど、用途に応じて個人情報の使い方を使えるようにするという方法を民生委員さんの意見なども踏まえてやらないといけないと思っております。民生委員さんも、前の方から引き継いでも一から調べてくださいという風になっておまして、法律ができてから非常に困ることになっております。法律の一番まずいところは第一義的には公共団体から個々人の情報を民間の人に出してはいけないという事になっているのが、まずいと思っております。そうすると市からそれこそ民生委員さんや自主防災組織の会長さん達にも情報を出してはいけないと、一人で住まれているところはどこですとかというのも出してはいけないと最初国通達が来たから、それはまずいな、ということで国にもそういう運用について改正しないといけないのではないかとやっているのです。町内ごとの避難地図とか、民生委員さんがどこに逃げにくい方が住まわれているかという情報をまとめていく必要があるなどは思っております。大切なお指摘をいただきましてありがとうございます。まだまだできていないところが多いので、相談しながらやって行きたいと思っております。

《参加者Jさん》

こういう震災があり、今までいろいろ質問があった時期ですから、避難とか大きなことが出ているのですけれども、昨年も、この地域は雨の降り方とかゲリラ豪雨という事も大きなことですが、手短なことですが水路とかゴミとかそういうことで水門のゴミ、それに伴ってポンプ場にゴミが詰まって。私も消防の関係でそういった警報が出たりしたらそのようなところを歩くのですが、これは市としてもすぐにやれることだと思うんです。そう言った部分の整備、私たちの地域ちょっと奥へ入ったら、満潮の大潮と雨が重なったら氾濫というか、浸かるような部分もありますので、そういった水路の整備とかきめ細かい部分を市でも対策をしていただきたいと思いますと思うのですけれど。

《市長》

豪雨になったときの水の流れ具合だとか、水門の開け閉めの部分など地元の皆様をお願いしているところも多いと思いますが、水路のゴミが溜まったり、水路の下が溜まってなかなか流れないだとかいう話も結構聞いております。市としてはいっぺんにできないのですが、地域の皆様のご協力もいただいて、市として計画的に整備をするところと、広範囲ということはなかなか難しいのですが、今言っていて、こういうところが豪雨のときに非常に困っているというのが、今の消防団の皆さんそれから土木委員の皆さんが一番よくご存知でいらっしゃるのです。そういう事を、支所、土木委員さんに言っていただいて、できるところからでもやっていきたいと思っています。

《参加者 J さん》

その都度、連絡を取ったりしてみます。

《参加者 K さん》

駅前、トヨタレンタリースの前の道路に、一般者の乗降駐車場を作っていただきたいと、思います。違反かどうかは解りませんが、5、6台がずらっと並んで停めるんです。普通に通行しようとするのが危ないし、歩道のほうに車がドアを開けるもので実際に当たりかけるし、ちゃんと市かJRかわかりませんが作っているのは、東側に、駅に向かって右側に3台くらい停まる場所がタクシーの乗降場の前にあるんですが、とてもじゃないけどこれだけではまかないきれないから実際にトヨタレンタリースの前に皆さんズラズラっと並べられるんでしょうが、悪い人はそこに停車じゃなく駐車して逃げる人もいますんで困るんです。今JRの空き地がどこかの民間に駐車場として貸しておられますけれど、そこをどうにかして開放したら。まあ、お金がかかる事がおかしいというんで、どなたかが市債がということも話をされていましたが、そうだとすると、安全の問題として1つして欲しいと思います。市の道路には県道とか国道のような番号はないんですか。

《市長》

番号ですか？路線名で大体。

《参加者 K さん》

その道路の名前を聞こうと思って支所建設課の若い方に市議員に言うぞといたら言うのだけはこらえてくれって言ってなんていう道路かは言わないんですよ。だから私もトヨタレンタリースの前だと言ったら皆さんわかるだろうから言ったのですが、こらえてください、私は知らないんですって言うから。そんなことじゃいかんと思うんですが、何号線かをつけるのが一番いいと思うのですが、道路はたくさんあるので、全部番号を振るのは大事だとは思いますが、1つよろしくお願いします。

もう一点、やっとなら公共下水道が桃山も使えるようになりありがとうございます。私のと

ころも2月の26日に切り替えたのですけれど、初回の負担金で、市の条例だと思うのですけど、半月ごとで最初の費用の負担があるのですけれど、それは26日につけて、2月は28日で終わりですよ。2日間でも半月分とられるのかと聞きましたら、取られるんだと支所に行ったら言われました。そこまで言うなら4分の1にしようかとか言うような話を言われたのですが。そういうことではなく量水メーターがついているんですから、工事が終わった時点で量水機の読み値を工事の責任者とその施主で書いて完成通知書ですか、それを市に連絡したら後はそれは手計算になるでしょうけれど、計算して請求したほうが市も安くなると思うんです。2日しかないのに半月分も取られたらかなわんです。そんなことを条例だと言って逃げようとするから汚いと思って、支所に行って支所の人に名前忘れたのですけれどその人に言ったらね、職員が少なくてもとてじゃないけれど水量メーターを読みに行くなんて事はできないといわれて。ちゃんと指定業者が責任を持って工事をしてるわけですから、土地の方の了解のもとでメーターを書いて、お互いの判子を押して、それを業者が市に通知をするんだと思いますから、それで手計算してもらいたいです。

《市長》

駅前の乗降場につきましては自転車のことなどを含めて、いろんな課題を皆さんから伺っております。たとえば自転車は時間を長くして整理をもう少しできないかだとか、確かに車の部分も道の上になるから県警と、私も一応しっかりと状況を聞きまして県警にも相談をしたりして、たとえばもっと取り締まりをしてもらう必要もあると思います。車をそこにおいて逃げていかれることもいけないと思いますし、課題の状況は教えていただきましたので、現状の状況もしっかり調べさせていただきたいと思います。

下水のことにつきましては、言っていたようなアイデアもあると思いますが、(いただいた文書を)よく読ませていただきます。ありがとうございます。

《参加者Cさん》

私は過疎化ということについて考える事が多くございまして、今倉敷市は過疎化ということについてどういう風にお考えなのか、お聞きしたいと思うのですが、素人考えで私なりに考えてみまして、先ほど倉敷駅裏、駅前についての話がございましたけれども、都心の都市計画についても必要だとは思いますが、私は逆に最近は過疎地の計画を一度考えてみていただきたいと思います。

《市長》

玉島は過疎地ではないと思いますが。

《参加者Cさん》

玉島の中心もそうですが、田舎に行きますと空き家がずいぶんあります。若い方が、立派な家はあるんだけど、車が入らないために出て行くという方が非常に多い。こういった空き地、空き家を有効に使えないから、でそれは道路が都心に集中して田舎に優良道路がなかなかつかない、田舎に道路がなかなかつかない。車が入らない道路ばかりですよ。そういうところにはどうしても若い人が住みつかない。そういった田舎ですと道路を造るにしてもそんなに大金がかからないと思うんですよ。全部やれというのは難しいかもしれないので、テストケースとして、本当にそういった空き地が多い地域に道路を造っていただいて、そういうところに若い人が住み付くのではないかと、そういったテストを一度やってみていただきたいということをお願いいたします。

《市長》

解りました、ありがとうございます。玉島地区だけではなく、倉敷地区でも児島地区でも非常に道が入り組んでいることもありまして、空き家のところもあると思うんですが、非常に多くの皆さんは豪邸の方がいっぱいいらっしゃるしまして、なかなかよけていただくのも難しいということもあり非常に市の街づくりに関しても難しいと思っています。

先ほどもお話ありましたが、避難場所の経路の道だとか、ものすごい渋滞というところもあるのですが、そういうところの道や避難場所について、整備やご協力を。少しでも道を広げられるように優先的にしていかなければいけないなど。すぐに道が広がるということは難しいとは思いますが、水路に蓋をかけるとか、そういうことも含めて、進めていかないといけないなと思いました。

《参加者Lさん》

防災関係で、明治17年という話もありましたが、江戸時代に、東海と南海地震が同時に起きたときもありますし、一日二日遅れてその地区ごとに地震があったという履歴も記録上に残っておりますので、当時の行政といえば岡山藩ということになりますけれど、そこでは資料は多分ないと思いますので、神社とか仏閣とかの資料などを参考にされますといいんじゃないかなと思っています。

次に、交通関係、車の関係と環境についてぜひお願いしたい。1つは東京とか、愛知県が交通事故が多発しており日本全国のワースト10の1位、2位を記録したわけですが、市民参加とスマートドライブ運動で交通事故を盛んに減少させておりまして、事故防止ということで市民総参加のスマートドライブ、今日ご出席されている方はベテランの領域の運転者さんですので、無償、弱年だとか、中年クラスだとかを対象にして、我々老僧のグループも含めて市民総参加のスマートドライブと。こういう構想を1つお考えいただきたいと思っています。

それから、倉敷市は観光で成り立っていかうとしてる訳ですが、それぞれの交差点に非常

に空き缶が多いというのをいろんな道を走っていると感じるようです。まず市のボランティア団体が立ち上げて、缶を捨てるな、犬の糞は持ち帰りなさいと、ボランティア活動の次に市が音頭を取って全市民対象にそういう運動を展開している、そういう市町村もございますので、そういう面も含め、お客さんをおもてなしするので、小さなことから配慮していく必要があるのではないだろうかと思っております。

《市長》

先ほどお話いただいた神社仏閣というのは非常にいいポイントだと思います。神社などの宮司さんなどにもお話を聞かせていただきたいと思いました。交通と環境については観光都市倉敷市ということで非常に大切なことだと思っております。これまで以上に地域の皆さんや、交通安全の会、環境衛生協議会の皆さんとも協力しながら、倉敷の方に人が来ていただくためにも交通マナーがよくてきれいな町だということが非常に大切だと思いますので、力を入れていきたいなと思いました。玉島には、玉島のことをよく知っております支所長もおります。地元の議員さんもおりますので、直接でも結構ですので、今後ともいろいろご意見をいただきまして、いいまち街づくりを進めていければと思っておりますのでどうぞよろしく願いいたします。今日は夕方のお忙しいところ大変ありがとうございました。今後ともよろしく願いいたします。